

感謝録

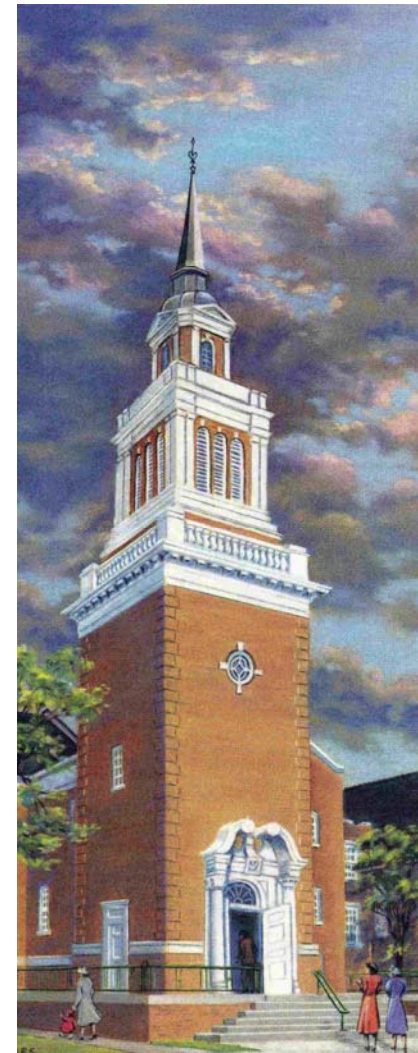
荒井 久和子姉	飯田 和晴兄	不破 満雄兄
加納 幸子姉	小坂 るみ姉	三縄 博兄
三縄 都美子姉	坂田 淑姉	下竹 博兄
下竹 寛子姉	鈴木 義兄	Scroggins 由紀牧師

記事: 消息

- * シカゴにお住いの山口万里姉からお便りと一緒に North Shore Baptist Church に対して献金を頂きました。有難うございます。
- * 過ぎにし聖日(12月15日)
- 一 由紀牧師の説教は、“マリヤへの預言”と題してルカによる福音書1章26-38節からでした。ナザレという小さな町の乙女マリヤに、御使いガブリエルが遣わされ、とこしえにヤコブの家を支配する男子を身ごもるといふ預言が与えられました。結婚をしていなかったため信じられないマリヤに、ご聖霊のお力により身ごもるといふ約束が与えられ、マリヤは素直にご計画を信じました。マリヤ、そしてさきに身ごもったエリザベツが神のご計画を喜び、ともに未来を信じたように、私たちも信仰によってすばらしい御国の到来を共に信じましょう。
- 一 聖書研究はローマ人への手紙15章1-3節を学びました。パウロは、ローマの教会に多くいた異教からキリストを信じた信者たちに対して、律法を守る信者たちの弱さをにないなさいと勧めています。私たちがご聖霊のお力により、主イエスが示された愛の道を歩み、党派心や虚栄でなく、へりくだった心をもってお互いに仕えることが出来ますように。(ピリピ書 2:3-8)
- 一 礼拝後お茶の時間に、鈴木兄の指導で、クリスマス礼拝に歌う讚美歌の練習をしました。
- 一 12:30 pm から 主会堂で全会員の特別集会があり、2014年度予算案と、Publicity Committee設立のために必要なConstitutionのAmendmennt が可決されました。
- * 武井里花姉がブラジルへ旅行中のため、鈴木義兄が12月15日、22日、29日の3日曜日、礼拝の音楽を担当して下さいます。
- * 12月22日(日) 12:30pm Howel Hall
各国語部のクリスマス礼拝のあと、イエス・キリストの誕生をお祝いする全教会のフェローシップがあります。ケーキとホット・チョコレートが用意されています。
- * 12月24日(火) 9:00 pm 主会堂
Christmas Eve Worship (クリスマス・イヴ 礼拝)

発行: 2013年 12月 17日ノースショア・バプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)

Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



週報

第3465号

2013年 12月 22日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

待降節第四日曜日
クリスマス讃美礼拝順序

2013年 12月 22日 午前11時 南部チャペル

憩いの場

“飼い葉おけの幼子”

前奏		鈴木 義兄
頌栄	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交読文	44 ルカ伝 1章	
聖書朗読	マタイ伝 2:1-5	下竹 寛子姉
賛美歌	94 “久しく待ちにし”	坂田 淑姉
聖書朗読	マタイ伝 2:6-12	下竹 由美子姉
賛美歌	106 “荒野のはてに”	女声合唱
賛美歌	98 サックス独奏	下竹 祐三郎兄
聖書朗読	マタイ伝 2:13-18	荒井 久和子姉
賛美歌	109 “きよしこの夜”	男声合唱
聖書朗読	マタイ伝 2:19-23	小坂 るみ姉
説教		Scroggins 由紀牧師
賛美歌	2篇 216 “み使いうたいて”	飯田 和晴兄
賛美歌	112 “諸人こそぞりて”	一同
献金		下竹 博兄
報告		Scroggins 由紀牧師
頌栄	541	
祝禱		Scroggins 由紀牧師
後奏		鈴木 義兄

(礼拝終了:奉仕開始)

祈禱・聖書学習会 午前9時45分 109号室
ローマ人への手紙 15章 指導: Scroggins 由紀牧師

12:30 pm イエス・キリストのお誕生を祝う全教会交わりの時
ケーキとホット・チョコレートが用意されています。

今週の聖句

イザヤ書 7章 10-16節 詩篇 80篇 1-7、17-19節
ローマ人への手紙 1章 1-7節
マタイによる福音書 1章 18-25節

”ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼い葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。” (ルカによる福音書2章6節)

シカゴはこのところ寒い日が続いていますが、凍えるほど寒い外を歩いていると、自分に暖かい居場所がある事をつくづくありがたいと感じます。それはもちろん、住んでいる場所に暖房がきいている、暖かい食事ができるということもありますが、暖かさには精神的な居場所、そしてそれにまつわる記憶も含まれている気がします。精神的な居場所には国や文化、価値観も含まれます。しかしクリスマスを待つ、待降節というこの時期に聖書が与えるチャレンジは、私たちが当たり前だと思っている居場所の暖かさから遥か遠くのところで、貧しい夫婦の旅の途中で救い主イエスがお生まれになったことです。しかも宿屋に彼らのとまる部屋がなく、彼らは馬小屋に泊まっていました。その飼い葉おけの中で、主イエスはひっそりこの世に姿を現されました。救い主は人々の目に付かない場所に光として現れました。

私たちは自分の居場所を失うことを何よりも恐れます。しかし、聖書は自分の居場所を持たない、しかし信仰によって生きた人たち、アブラハムやモーセなどの先人が多く描かれています。クリスマスの本当の意味は、移動し続ける中で生まれた幼子イエスが示された生き方、確立された自分の居場所というものにこだわる宗教者や信仰者たちへの挑戦にあるのではないのでしょうか。どうかクリスマスの時期に、私たちが象徴としての飼い葉おけ、そして旅の途中でおうまれになった主イエスを思い出すことができますように。(スクロギンズ由紀)